



執行役員社長室室長  
松本茂規氏

「昔、当社の本社がある唐人町は海のそばの漁師のまちでした。もしものときに家族に資産

福岡で賃貸管理、賃貸・売買仲介などを手掛ける(株)三好不動産(福岡市中央区、代表取締役社長…三好 修氏)。同社は、18年11月に、(公財)東京オリンピックピック・パラリンピック競技大会組織委員会が「2020年東京オリンピック・パラリンピック」を通じたSDGsの推進協力を決定したことを契機に、社内で検討を始め、19年夏より本格的に事業の共通理念としてSDGs宣言の検討を開始した。

「が残せるよう、漁師たちに賃貸住宅の建設を提案し、その管理を受託したことが今の当社の出発点。その後も福岡に住む人が当社の事業を通じ、長く快適に暮らせるよう、住環境やサービスを提供してきました。ここ10数年は外国人、高齢者、LGBTのサポートにも力を入れていきます。これまで継続して行なってきたこれらの事業は、まさにSDGsに則った活動です。SDGsを宣言することで、社員の誇りや、やりがいにつながるのではないかと考えました」(同社執行役員社長室室長・松本茂規氏)。

まず、17の目標から事業と合致している目標を抽出し、「11・住み続けられるまちづくりを」を筆頭に、「10・

11 住み続けられるまちづくりを



## 関わる人はすべて「家族」。 長く快適に暮らせる住環境を

(株)三好不動産(福岡市中央区)

人や国の不平等をなくそう」など6つの目標を定め、同年10月より社内外への発信を開始した。ところが、しばらくすると「目標が複数あると、かえって分かりにくい」という声が出てきた。そこで、目標11を事業全体の目標に据え、その下に各目標を置くシンプルな形に再整理したという。

「当社は、創業70周年を機に、関わる人すべてに対し、家族のように想い、家族のように寄り添う『All for family』を新ビジョンに掲げました。その「家族」に対して末永く住み続けられる住環境の提供を、というメッセージも込めています」(同氏)。



16年10月よりLGBTの賃貸住宅入居を支援。店舗外観にはLGBTフレンドリーのレインボーステッカー(写真左側)を掲示する(写真提供: 三好不動産)